

視察・研修報告書

視察研修先	大野城市役所
日 時	令和6年7月26日（金）13時00分～16時00分
場 所	全員協議会室
テーマ	議会改革を次の段階へ ～市民を巻き込んだ政策サイクル～
対応者 (講師)	大正大学地域創生学部公共政策学科 江藤俊昭 教授
概 要	
<p>【議員・議会の現状】</p> <p>◆議員の最も華やかな活動は</p> <p>議員の最も華やかな活動は一般質問である。有権者（支援者）の想いを受けて、質問をすることは非常に良いことであるが、質問するだけでなく、それをどこまで生かしていくのかが今後の課題である。一般質問は、議員個人が行うが、よい質問であれば、「みんなで共有し議会で形にしていく作業」が必要である。今の一般質問は言いつばなしでもったいない。よい一般質問については、是非、議会全体で形に出来るようにしてほしい。例えば「議会だより」で、その後どうなったのか、議会で検証し、議論していくことができればよいと考える。いくらよい一般質問をしても、住民のためにならないともったいない。よい一般質問は、議員個人のものだけにするのではなく、議会として、所管事務調査等で検証し、大事なものは、政策化及び条例化していくべきである。</p> <p>◆議案審査の重要性</p> <p>一般質問より議会での議案審査の方がよっぽど大事である。</p> <p>まず、議会は、地域にとって重要な権限と役目を持っている。議案審査は委員会に付託していると思うが、議案のほとんどは「首長」が提案し、委員会で議員が質疑等を行い、執行部が回答する。議員は教育、障がい者、商業、農業その他全てのジャンルに精通している議員はいるのかといえは恐らくいない。しかし、執行部にはその専門職員がいるので専門性について議員は敵わない。そうであれば、議案審査の時に、専門家を参考人として呼ばないのか。参考人に意見を聞き、そのうえで、議員間討議で討議し、討論を行い採決する。</p> <p>参考人を呼び、議会・委員会で執行部の議案理由の裏付けを確認することができるので、賛成できる内容なのか、それとも言葉足らずの部分等がないかなど、議会として、執行部から説明を聞くことは、住民にとってもプラスになる。</p> <p>◆首長と議会について</p> <p>首長は議案の提案をするだけであり、決定するのは議会である。議会がしっかり動かないと地域はよくなるので、議会がどのように動くかが大事である。地方自治法第96条（議会の権限）として、議会が全てにおいて権限をもっている。首長の権限は、地方自治法第149条に議案の提出と契約等であると規定されていて、議会に重きが置かれているかがわかる。本当の民主主義は、議会を中心にしながら議論することが大事である。時々、それを勘違いしている新人首長が出てきている。</p>	

【住民と歩む議会の意義】

議員は、住民の声を聞き、政策を提言することにより、住民の暮らしやすい地域をつくっていくことが使命である。「誰のための議員なのか」このことを忘れてはいけない。決して、一部の組織や首長のための議員・議会であってはならない。

◆住民と歩む議会として

- ①議会報告会や個人の市政報告会などが実施されているが、多くの問題として「集まらない」、「同じ人ばかり」、「意見や不満等のガス抜き化状態」などになり、本当の意味で「議会と住民」との関わりが持てていない。そのため、新たな方式として意見交換を行う際にテーマを決めて、そのテーマに興味のある住民や団体に呼びかけて、参加を促す。
- ②模擬議会等を行い、議会をより知ってもらう。また、住民の力や知恵を借りて「政策サポーター員」や「議会モニター員」なども募集し、直接議会への助言や意見を言ってもらえるような機会をつくり、議会改革に活用していく。

所 感

- ・今回の研修は、様々な角度から講義をしていただき、参考事例を話していただきました。議員としての花形は一般質問だけでなく、毎回の議会で出された議案を、議員間で協議・討議を行うことも重要である。首長が提案した議案は、必ずしも住民にとって良いことであるかはわからない。執行部が出す議案は、専門知識が多い職員さんが様々なスパイスをかけ、調理し作り上げている物なので、表面的な事しかわからないことや理解しきれないこともある、そのような不安があれば参考人を呼び、執行部内容の精査を行うことも出来ることに驚いた。
- ・また、一般質問も自分の質問に対して、その後の進捗等が気になり早く実現できていないかと考えていた。しかし、住民福祉の向上を考えると、自分の質問への実現だけでなく、他の議員が提案した質問についても、議会全体や委員会として、よいものであれば一緒に進め、もし、実現できたならば、広い意味で「議会として」、「住民の幸福」のためであると肝に銘じておく必要があると改めて感じた。
今後も、議員として、議会の一員として、本当にすべきことを行っていきたい。

作成者 河村 康之